

<研究名称>

ウェルニッケ失語を呈した1例の改善経過-訓練内容、フォロー体制に着目して- (仮)

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 所 属 リハビリテーション科

職 名 技師長

氏 名 木村 和久

実施担当者 所 属 リハビリテーション科

職 名 言語聴覚士

氏 名 小野 智美

<研究期間>

2020年9月14日～2020年10月28日

<診療・研究の目的>

脳血管疾患や神経難病を発症した患者は高次脳機能障害を呈する場合があります，リハビリテーションが必須となる。当院でも高次脳機能障害を呈する患者に対しリハビリテーションを行っている。高次脳機能障害は損傷部位により多様な症状が出現するが，特に失語症はリハビリテーションを行う上でSTが専門的に患者と向き合い，適切な評価を選定した上で訓練プログラムの立案が求められる。加えて個々の患者の個人・環境因子も把握した上で機能訓練のみならず，指導・助言も含めた環境調整を行う必要がある。

現在，失語症を始めとする高次脳機能障害に対して，標準化された評価・訓練方法はあるものの，損傷部位による多様な症状や患者個人の特性（性格等の含め）により，評価・訓練方法に関しては，個々の患者に合わせてアレンジも加えながら，患者と常に向き合う必要がある，STはより専門的で高度な知識・技術を常に学び続ける必要がある。高次脳機能学会を含めた各種学会でも，失語症や高次脳機能障害を呈した患者の症例報告は数多くなされ，STを始めとする各種専門スタッフが意見を出し合い，検討を行っている現状がある。そこで今回神経難病によりウェルニッケ失語症を呈した患者を担当したため，急性期での改善経過を分析し，訓練内容や今後のフォロー体制について，検討を行っていきたいと考えている。北海道言語聴覚士会道北支部オンライン症例検討会に発表予定である。

<実施内容（方法）・危険性（副作用）等>

（1）実施内容（方法）

当院にて入院されていた患者であり，当院入院中に言語聴覚療法を行なった期間（2020年9月14～10月28日）内における初回時の病状や言語症状等の評価、訓練内容、最終的な病状と言語症状等の改善度について分析を行う。また訓練内容が適切なものであったか、ま

た今後の必要なフォロー体制について考察・検討を行う。

(2) 危険性・副作用等

特になし。

<倫理上問題になると考えられる事項>

データ提示により個人が特定されないよう、氏名、年齢（年代は記載）、などの個人情報は一切記載しない。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院      リハビリテーション科 小野 智美

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648